

○議会トピックス

3月定例会開催(2月24日～3月17日)

1 令和4年度予算案可決

令和4年度の主要事業は「危機への対応」、「教育の推進」、「医療・介護・福祉の充実」、「生活環境の改善」、「産業の振興」、「文化芸術の振興」、「多様性の構築」の7項目に区分されて、一般会計の当初予算は198億886万2千円(対前年度比5億8886万2千円増)。増額となったのは、昨年8月の豪雨災害の復旧経費が大幅に膨らんだため。国民健康保険・介護保険特別会計など6つの特別会計90億4717万4千円(2899万円減)、下水道事業会計10億4537万5千円(6370万2千円減)、水道事業会計14億6966万6千円(8584万9千円減)で予算総額は313億7107万7千円(4億1032万1千円増)。

廃止された事業は郵便局における特定事務の取り扱い、人権対策協議会補助金、プール健康教室委託料、空き家購入補助金など6事業(1,034万3千円)。

令和4年度の事業と予算については、広報あきたかた5月号と議会便り第73号に詳しく掲載されています。

2 副市長定数 削減案可決

3月7日の本会議で、議員から提案(議員発議)された副市長の定数を2人から1人に減らす条例改正案を、賛成11人、反対4人の賛成多数で可決した。副市長定数については、市議会が令和2年6月に2人に増やす条例改正案を可決している。石丸市長は公募で民間の女性を候補に選び、21年3月の定例会で2人目の副市長の選任同意案を提案したが賛成7人、反対8人で同意案は否決され、再提案も否決されている。副市長の1減案の提案理由としては、新型コロナウイルスの長期化や昨年8月の豪雨災害で、市を取り巻く社会情勢が大きく変化しており、財政の健全化と市民感覚からも副市長を2人にする必要はないとした。

私は昨年3月の石丸市長の2人目の副市長提案の時から一貫して賛成しており、今回の削減案に対しては反対した。私の反対討論は以下のとおり。

私は副市長の定数を1人に削減する発議に対して反対の立場から討論します。現在の安芸高田市が置かれている状況を見ると、令和2年11月頃から新型コロナウイルス感染症が顕在化、拡大し、また昨年の令和3年8月には記録的豪雨に見舞われ、商工業や農業、小中学校など学校教育、保育所、幼稚園など幼児教育、高齢者の施設などに多大な影響を与えています。

このような状況のなかで、市民生活全体に暗い影を落とし、多くの大人も子供も疲弊しきっています。コスト削減という課題にも直面しており、今後も今まで以上に取り組んでいかなければなりません。このように市のムードが沈滞化している時にこそ、内向きになるのではなく逆に積極的に打って出ることが必要ではないかと考えます。

2人の副市長のうち、例えば1人は内をしっかりと守り、もう一人は積極的に活力を見出せる施策を打ち出し外に向くなど、二人三脚での連携と適切な役割分担を考えることができます。

2人体制は、1人体制と比べて確かにコストはかかりますが、コストに対してきちんとした実績を上げることが出来れば、コストは充分償われると思います。新型コロナウイルス感染症で疲弊し、記録的豪雨で壊滅的な打撃を受けた今こそ、力量のある2人の副市長体制が出来たら大きな力が発揮できると確信して副市長を一人にする発議に反対します。(原文のまま)